

平成28年度学校自己評価システムシート (県立川越工業高等学校)

目指す学校像	地域や産業を支え、新しい時代を切り拓く、創造性豊かな実践的技術者を育成する
--------	---------------------------------------

重点目標	1 専門教育の深化と学力の向上を図り、第一志望の進路を実現する力を育てる 2 自主性・主体性を高め、より高い目標に果敢にチャレンジする精神を育てる 3 地域等との連携を深めるとともに、積極的な情報公開に取り組む
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	9名
	生徒	7名
	事務局(教職員)	14名

学 校 自 己 評 価							
年度評価(1月26日現在)							
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	【現状】 ・生徒は穏やかであり、授業も円滑に行われている。 ・継続的な基礎学力の定着を図る授業の実践より、成績不振者は減少している。 【課題】 ・専門教育を深化させ生徒の学習意欲を高めるとともに確かな職業観の育成が求められる。 ・国公立大学への進学をはじめとする生徒の高い志を育成し維持させる必要がある。 ・学科の垣根を越えた取組をより多く実施し、生徒間で刺激し合い主体的に学ぶ機会を増やす必要がある。	○学力向上を目指した授業の工夫 ○工業科の実習と課題研究の授業改善 ○進路実現100%に向けた進路指導	①学力の向上を目指した授業の工夫 ②指定校事業などを活用した実習や課題研究の改善 ③各学年における段階的進路指導の実施	①生徒アンケートによる授業満足度 ②成績優良者数、成績不振者数 ③国や県の事業などを活用した教育活動の実施状況 ④生徒の進路意識の向上と進路実現に向けての取組状況	①生徒の授業アンケートでは、約70%の生徒がわかりやすいと回答しており、概ね達成している状況である。 ②成績優良者(2学期末時点の成績の平均が8.0以上)は、全体の9.7%であった。2学期末時点の欠点保有者数は、昨年度とほぼ同数であったが、延べ欠点数は昨年度比11.6%減少した。 ③「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」(文部科学省)において、キャパシタやワイヤレス給電をはじめとする新技術の研究に取り組むなど専門科目の深化が図られた。新たに「五科合同課題研究発表会」を計画し、生徒一人一人のプレゼンテーション能力の向上と、他学科の学習内容の理解がはかられた。 ④校内でのガイダンスや説明会、個別相談を通じて情報提供を行うことができた。また、進学希望者に対する小論文指導や補習を行うことにより、進学希望者中の大学志望の割合が、17%向上した。組織的な進路開拓により、求人件数が20%上昇するとともに、第1希望の企業からの内定率が約90%になるなど高水準となった。	B	①生徒の授業アンケートにおいて、80%以上の生徒がわかりやすいとの回答が得られるよう、夏休み中に各HRに設置したプロジェクターの効果的な活用や互見授業などをはじめ、授業改善に組織的に取り組む。 ②成績上位者をさらに伸ばす工夫を行うとともに、成績優良者の増加を図る必要がある。また、成績不振者の減少に努める。 ③「五科合同課題研究発表会」をはじめ、学科の枠を越えた取組をさらに充実させ、生徒の「主体的・対話的で、深い学び」が実現できるよう努める。 ④国や県の事業を有効に活用するほか、学校独自の企業連携を推進し、専門高校の特色を生かしたキャリア教育を推進する。
2	【現状】 ・挨拶、身だしなみ、清掃など、生徒の基本的な生活習慣は良好である。 ・部活動や生徒会活動などが主体的に行われている。 【課題】 ・生徒一人一人が高校生活に充実感を持ち、一層の基本的な生活習慣の確立と定着を図るため、多面的で組織的な指導を行うことが必要である。 ・部活動や生徒会活動など生徒主体の活動を支援し、学校全体の一体感を醸成し自校への誇りを自覚させる。	○生徒の心身の成長と規範意識の向上 ○部活動・生徒会活動のさらなる活性化	①日常の組織的な登校指導や声かけ運動、身だしなみ指導等の実施 ②部活動や生徒会活動、地域交流・ボランティアをとおして、生徒の多様な経験を支援し小さな成功を積み重ねさせチャレンジ精神を醸成する。 ③志を維持させ確かな職業意識を確立するための講演や特別講義の実施	①生徒の挨拶、身だしなみ、遅刻の状況 ②学校行事・部活動・生徒会活動の取組状況 ③外部講師等の活用状況	①多くの教員と生徒会の協力のもと、あいさつ運動や声かけ運動が行われた。生徒の挨拶、身だしなみの状況は大変良好である。 ②学校行事では、日頃の学習成果の発表の場である「工業祭(文化祭)」に4千人を超える来場者があった。部活動では、野球部が選抜高等学校野球大会21世紀枠埼玉推薦校に推薦されたほか、自転車競技部がインターハイに出場、陸上競技部が走高跳関東選抜新人大会に出場などの成果があった。生徒会活動では地域の清掃活動や幼稚園との連携活動などが認められ、川越市から「やまぶき褒賞」が授与された。 ③スイカ開発者権橋章夫氏(JR東日本メカトロニクス社長)による講演会をはじめ、高度熟練技能者等を講師に迎え、旋盤、建築大工、化学分析、機械検査技能検定受験者向けの講習会や特別講義を実施した。	B	①あいさつ運動や声かけ運動を継続するとともに、学校全体で生徒を見守る体制をさらに強化する。また、遅刻数の減少に向け取り組む。 ②部活動や生徒会活動は生徒の心身の向上のための重要な役割を果たしている。また、部活動による生徒の活躍は、学校全体の励みとなる。今後も部活動や生徒会活動をはじめ、生徒の心身の成長と生徒同士の絆を深められるよう取り組んでいく。 ③先端技術や高度技術などの「ホンモノ」に触れる機会を増やすことにより生徒の可能性をさらに伸ばさせるため、各分野の専門家や技術者など外部講師を積極的に招へいする。
3	【現状】 ・日々の教育活動をホームページ等により情報発信するとともに、日頃の学習活動を活かした地域貢献に取り組んでいる。 【課題】 ・今後も、地域・保護者の理解と協力を得ながら教育活動に取り組むとともに、積極的な情報発信を行い開かれた学校づくりを推進する。	○ホームページ等による積極的な情報発信 ○地域・保護者との連携による教育活動	①ホームページや広報紙を活用した日々の教育活動の発信 ②保護者のニーズに沿ったきめ細やかな情報提供 ③地域と連携した事業の実施	①ホームページ更新状況 ②保護者アンケートによる学校への満足度 ③地域連携事業の取組状況	①学校ホームページを毎日更新するなど情報発信に努めた。 ②各学年とも定期的に学年通信を発行したことなどにより、保護者アンケートの「学校の様子が伝わっている」に84%の保護者が伝わっているとの回答があった。また、ホームページの閲覧状況は昨年度より8%増加した。 ③西武所沢店での生徒による「ものづくり教室」や、丸広百貨店川越店が主催した本校の「歴史と現在展」、川越産業フェスタなど、企業・団体との連携は、生徒の問題解決能力やコミュニケーション能力の向上や地域の学校理解につながった。埼玉県キャリア教育実践アワードにおいて、2年連続となる最優秀賞と奨励賞が授与された。	A	①学校ホームページの中には、更新されていないページも見受けられるため、学校ホームページ全体の改修・改善に取り組む。 ②PTA・後援会との連携のもと、保護者のニーズに沿った情報提供に取り組む。 ③「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、積極的な地域連携に取り組むとともに、工業高校の特色を生かしたキャリア教育を推進する。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成29年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
・「五科合同課題研究会」は、生徒のプレゼンテーション能力を高め、学習の成果を発表するという点で充実感を与えること、他学科を知る生徒同士の交流がある有意義な取り組みである。また、高校生ならではの独自の発想の研究があった。 ・2学期からHR教室のプロジェクタを活用した授業がスタートし活用効果があらわれている。さらに授業研究を重ねて学力向上に繋げてほしい。 ・若い社会人のコミュニケーション能力、読解力、比較する力が落ちている。それらの力を育成してほしい。	
・工業祭は来場者も増え、保護者も多く活気がある。 ・生徒が主体的に活動している場面が多く見られるように学校が変わってきている。五科合同課題研究発表会を生徒主体で運営したことはすばらしい。	
・保護者アンケートで「学校の様子が伝わっている」は高水準である。学年通信などに工夫が伺われる。 ・3年生を送る会の連絡など保護者の要望に対応して直ぐに情報提供がされた。 ・保護者あてに通知を配付した際は、一斉配信メールで連絡をするなど工夫をしてほしい。	